

序 はじめに

序－１ 計画策定の背景と目的

中井町には鉄道駅がなく、最寄り駅はＪＲ東海道線二宮駅または小田急線秦野駅となり、最寄り駅までは路線バスが運行されているが、中村上地区や中村南地区、井ノ口遠藤原地区など広範囲にわたり公共交通空白地域が点在している。また、平成 24 年度より中井町社会福祉協議会が主体となって、「福祉有償運送サービス事業」を開始している。

中井町の人口は、平成 7 年以降微減傾向で、「中井町都市マスタープラン（平成 21 年 3 月改訂）」の中で定住環境を高める公共交通の充実により人口増加（平成 40 年：12,000 人）を目指している。高齢化率は平成 25 年 3 月 1 日現在、26.36%と増加傾向で本格的な高齢社会の到来により、マイカーでの移動が困難になる人や運転免許証を返納する人の増加が見込まれる。また、町全体が丘陵地のため坂道が多く、徒歩や自転車での移動に適しておらず、高齢者や児童・生徒など自動車を運転できない人の移動に支障を来している。

町唯一の公共交通手段として民間路線バスが担っているが、一部の路線では赤字路線となっており町が運行費補助を行っている。高齢者等の移動支援や外出先へのアクセス改善など、日常生活に必要な最低限の交通手段の確保及び住民の移動ニーズに合った交通手段を提供するため、近隣市町との連携強化といった課題解決が求められている。

公共交通の充実には、将来に向けた中井町全体の公共交通計画が必要であり、通勤・通学者、高齢者などの利用者や交通空白・不便地区など、地域のきめ細やかなニーズを把握し、既存の公共交通機関と連携して利便性の高い公共交通体系を構築することが必要である。

このため、だれもが移動しやすい持続可能な交通体系をつくるため、平成 19 年 10 月に施行された「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき、中井町における公共交通を総合的かつ一体的に推進することの基本的方針や目標、実施すべき事業などを明らかにし、将来に向けた公共交通計画「中井町地域公共交通総合連携計画」を策定する。

序-2 計画策定フロー

■計画策定フロー

